学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区目白1丁目5番1号
電話 03(3986)0221内線2607
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/press/
press@gakushuin.ac.jp
発行・編集人　南波さやか
年間500円

法科大学院が開校

倍率は15倍

平成16年度、法科大学院の入試結果が公表された。既修者50名、未修者15名、計65名の定員に対し、志願者は各767名、594名、1361名。倍率は15倍。全国的にみてトップクラスの倍率を示した。入学者数は各51名、15名、66名。ほぼ定員通りである。これは、クラス数を増やしたり、定員割れを起こしたりしているところが多い中、稀に見ることといえよう。

また、人数だけでなく学生の質についても期待的な面もあるようだ。まず、合格者の段階で22大学、入学者でも16大学と、多くの大学から人が集まった。さらに社会人も多く、多様な背景を持つ学生同士が、お互いに刺激しあい、切磋琢磨できる環境になっている。

平成16年度 法科大学院入試結果　情報提供：入学課

	既修	未修	合計
志願者数	767	594	1361
書類選考合格者数	417	164	581
筆記試験合格者数	144	60	204
面接試験合格者数	70	21	91
入学者数	51	15	66
合格倍率	11.0	28.3	15.0

	男	女	合計
既修者合格者男女数	50	20	70
未修者合格者男女数	14	7	21
合格者全体の男女数	64	27	91

既修者合格者出身大学

大学名	人数
早稲田大学	19
慶應義塾大学	8
中央大学	8
学習院大学	6
東京大学	6
明治大学	5
京都大学	4
一橋大学	4
上智大学	2
成蹊大学	2
青山学院大学	1
国立富士工業高等専門学校	1
成城大学	1
津田塾大学	1
法政大学	1
立命館大学	1
合計	70

未修者合格者出身大学

大学名	人数
慶應義塾大学	3
東京大学	3
早稲田大学	3
中央大学	2
学習院大学	1
京都大学	1
聖心女子大学	1
千葉大学	1
東京外国語大学	1
東京都立科学技術大学	1
一橋大学	1
広島大学	1
法政大学	1
立教大学	1
合計	21

入試は、窓口で行われた。筆記試験では、3科目から6科目で実施するところが多い中、7科目すべての試験を実施、さらに最終合格者の選考に当たっては、各自の資料すべてを見て、細かく検討すべく判断された。その結果が、入学者の質に表れたようだ。

とりわけ未修者のレベルは非常に高い。目標が明確で、中には従来の生活を捨てできた人もいるため、真剣に勉強に励んでいるという。自習室の電気が、閉室時間中も消えることがなく、休日も勉強する学生の姿がある。目の色を変えて勉強する学生層がいることが大学の雰囲気を変え、やっと大学らしくなったという教授もいるようだ。

法科大学院をより充実させるために、専門のコンピュータ室、実習室、研究室、家教員の質の高さは全国有数で、学生の要求に十分適応しているのだ。整った環境で学ぶ学生の、2年後の新司法試験の結果が注目される。

教員を増加する必要が生じた。公平な教育を実施するには現状が厳選だ。また、教員の質のレベルが高いことを挙げられる。特に実務家教員の質の高さは全国有数で、学生の要求に十分適応しているのだ。整った環境で学ぶ学生の、2年後の新司法試験の結果が注目される。

登録者数、3千超

トレーニングルーム

昨年度末の開設された西2号館地下2階のトレーニングルーム。昨年4月開けどのような利用状況だったのだろうか。

昨年度のトレーニングルーム利用登録者は学生が2910名、教職員が183名。年間の男女別の利用者数をみると、学生は男子の利用者が女子の約3倍と圧倒的に男子学生による利用が多い。一方、教職員は、女性教職員の利用者が男性教職員の約2倍になっている。また昨年度、学生の利用者が最も多かったのは6月。これは利用登録を終えた学生が一気に利用し始めたからだと思われる。そしてやはり、夏季、春季休講中、後期試験あとなどをいやすい環境を整えた。昨年度は、学生の不在中に補助を組ってしまい、バーベルを落としてしまい、顔を負傷したりと、スタッフを常駐させ、相談なども行なっていた。

昨年度の利用状況をまとめ、今年度はインストラクターだけでなく、受付にも補助を増やすべく、利用者にはなるべくきれいな格好で来てもらいたい。長く使うということを考えて利用してほしいと語っている。

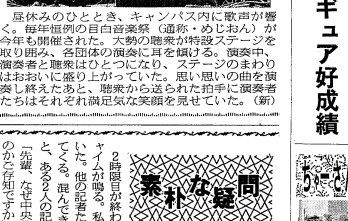
現在、講習会への申し込みは1年生が多いようだが、学年を問わず、未登録の学生はぜひ参加してみるといいだろう。

平成15年度における一日あたりのトレーニングルーム平均利用学生数

月	男子	女子	計
4月	46.3	14.6	60.9
5月	59.8	21.9	81.7
6月	83.1	29.3	112.4
7月	73.6	30.0	103.6
8月	53.7	15.2	68.9
9月	58.9	19.0	77.9
10月	71.5	24.7	96.2
11月	72.1	24.2	96.3
12月	74.5	28.7	103.2
1月	62.5	19.6	82.1
2月	62.9	19.4	82.3
3月	53.6	15.5	69.1
平均	64.4	21.8	86.2

単位：人

初夏を告げる祭典



昼休みのひとときを、キャンパス内に歌声が響く。毎年恒例の自由音楽祭（通称・めじおん）が今年も開催された。大勢の聴衆が特設ステージを取り囲み、各団体の演奏に耳を傾ける。演奏中、演奏者と聴衆はひとつになり、ステージのまわりはおおいに盛り上がっていた。思い思いの曲を演奏し終えたあと、聴衆から送られた拍手に演奏者たちはそれぞれ満足気な笑顔を見せていた。（新）

学習院 研究最前線

学問研究の「いま」

「学校文化・慣習に関する研究」

教職課程 斎藤利彦教授

今回は、教職課程の斎藤利彦教授です。学校制度の中の慣習や文化を研究しているっしゃる先生。その研究、現在の教育界の姿についてお話を伺いました。（取材・構成　天野宏美）

◇　◇　◇

慣習や文化の示すもの

日本の学校には様々な慣習としての行事がある。たとえば運動会。中でも徒競走は足の速さを競う競争原理として経験がある。では、その目的は何だったのか、目的や形式は時と共に変化してきたようだ。

運動会の起源は明治前期に遡ります。目的は集団訓練と競争。それは富国強兵に向けられていました。でも、徒競走なんて走る前からある程度勝敗が分かってしまいますから、競争心というよりも、ある種の劣等感の刷り込みですね。

一方、最近の運動会では競争の種目が減少すると、変化が現れています。

一運動会の目的自体が変化しています。様々な創意工夫を盛り込み、生徒全員の活力引き出そうとしているのでしょう。その方法の一つとして集団の中での競争が減っているわけですが、それは集団訓練という呪縛から逃れようとしている風にも見えます。

試験という文化

そして、受け継がれてきた学校文化の中に先生が特に関心を寄せているのが、学校における試験制度だ。

「たとえば、現在の中学や高校でも行われている中間試験や期末試験は、学校ごとに定期的に行なわれ、様々な形で試験が実施されています。」

「当初は学校でも競争試験と落第がありました。全生徒の成績を校門前に張り出したり、成績で席次を決めたりして誰も疑うことなく存続していました。この試験制度は明治5年の学制発布と共に、競争を組織するために考え出された仕組みと言えます。」

「明治時代は、皆が向じスタートラインに立つべきだとする平等観が一応成り立っていました。そして、戦後の民主的改革のもとで、どの階層からも能力のある生徒が学歴を獲得できる道が広がっていきました。しかし、もしまた、落第が普通に2割も出て、落第者を否に自殺した小学生の話も聞く時代になったとしたら、どうでしょうか。このような事故の再発防止のため、フリーウェイトを使用するときは補助をきちんと利用する必要がある。複数人で利用する場合には当日の補助を頼むよう、と注意を呼びかけている。

そして、スポーツ・健康科学センターの野太佳司（たかし）教授は学生の利用状況について「土足や、泥のついたままの学生が、新しい機器を使用してしまうと、壊れ易くなるので、利用者にはなるべくきれいな格好で来てもらいたい。長く使うということを考えて利用してほしい」と語っている。

現在、講習会への申し込みは1年生が多いようだが、学年を問わず、未登録の学生はぜひ参加してみるといいだろう。

試験という文化は、競争を組織するために考え出された仕組みと言えます。」

「明治14年の新聞に出ています。予想を超えた競争の加熱に、国家が慌てて不発に終わったが、当時の政策側の考えがよくでています。」

現代における平等と競争

そして、「建前には平等の理念を掲げた競争制度も、今はそれとはかけ離れた姿になりつつあると先生はいう。

「明治時代は、皆が向じスタートラインに立つべきだとする平等観が発展する原動力となりました。

だが、その競争が過剰になり、様々な歪みを生みもたらしていく。

学校の競争試験を廃止します。明治20年の訓令です。その理念とされたのは、過剰な競争によって疲たちが健康を損ない、頑健な兵士育たなくなるというものでしたから、当時の政策側の考えがよくでています。」

現代における平等と競争

そして、「建前には平等の理念を掲げた競争制度も、今はそれとはかけ離れた姿になりつつあると先生はいう。

・文化的にできない層、勉学に適した環境を特権的に活用し最初から競争を有利に勝ち抜いていく層の分化がますます明瞭になってきています。

父親が高学歴の高収入で母親が専業主婦というような、長期の受験競争に家族一致して臨める家庭で育った子が、圧倒的に進学競争に有利な状態を占める状況が拡大しているという。

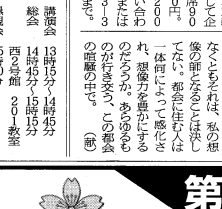
「スタートライン段階での格差が広がっているんです。そして、それが当然のこととみなされる社会になりつつあります。教育の階層化や、学歴の世襲化といわれる事態がそれです」

競争、参加できる層が限られて「しまっている不等な現状。今の教育の先に城戸は見ようとも、それを乗り越えるものは見えていない、真の教育とは、いつ出会えるのだろう。

PROFILE

斎藤利彦（さいとう・としひこ）

1947年生、東京大学法学部卒業。84年、同大学大学院教育学研究科博士課程修了。85年に本学文学部講師、助教授を経て教授に就任。教育学博士。



教育史に関する本

天下一武道会が変わる

第35回大学祭

2時間目が終わり、昼休みを告げるチャイムが鳴る。私はすぐに教室を飛び出ていった。他の記者たちも疲れた表情で聞いてる。混んできたので出ようとすると、ある2人の記者が話し始めた。

「ねえ、考えたことも無いな」

「当時、教育人入会教室で建てるには、窓に柱や梁を入れる必要がありました。でもピラミッド型はそのような必要がなく、席が少数で見渡しも良好。また当時日本にはピラミッド建築がなかったのかご存知ですか」

「そう言えば、ピラミッド型なんて珍しくもないな。今じゃ有明の東京ビッグサイトみたいに沢山ピラミッド型だったのかなあ」

「無駄な知識の多いやつらだ。でも確かに気になる。俺も調べてみよう」

その後、驚くべき事実も見つかった。雑誌の前身、学習院新聞が中央教室の募集を学生に募集していたのだ。結果は「ピラミッド教室」。でも今は「ピラミッド教室」とも言っているから「ピラミッド教室」か。あれ、いつから変わったんだな。（英）

2年生の学生が、ピラミッド型なのかご存知ですか

「ほう、なるほどだから、ピラミッドなんだな」得意げに言った。

「だからなんだ？」

「刚にピラミッド型なんて珍しくもない。今じゃ有明の東京ビッグサイトみたいに沢山ピラミッド型だったのかなあ」

そう言い捨てて先輩記者は出て行く。

「無駄な知識の多いやつらだ。でも確かに気になる。俺も調べてみよう」

その後、驚くべき事実も見つかった。雑誌の前身、学習院新聞が中央教室の募集を学生に募集していたのだ。結果は「ピラミッド教室」。でも今は「ピラミッド教室」とも言っているから「ピラミッド教室」か。あれ、いつから変わったんだな。（英）

素朴な疑問

奥が深い 三角の関係

明治神宮の大鳥居は、なぜ三角形なのか？

明治神宮の大鳥居は、なぜ三角形なのか？

明治神宮の大鳥居は、なぜ三角形なのか？

自分の夢に近づこう

不況が深刻な現代、就職難が心配されている。しかし、本学には就職支援プログラムが充実している。本特集で来たる就職活動に備えよう。

就活で好調なスタートを

今春、全国で新卒者の就職状況が少し改善した。不況に悩まされる中、ようやくの回復とされる。厚生労働省の調査によると、大02年度以降1・35倍卒の内定率も上昇、少しずつ上向きの傾向にあるようだ。

しかし、楽観はできない。リクルートの調査では、大学の求人倍率は0・94倍と、前年度を下回った。

やはりまだ厳しい状況にあるようだ。では、具体的にどのような対策が行われているのだろうか。その意義と、その重要性を探った。

卒業予定の民間就職希望者は約43万5千人で、倍率は1・37倍となっている。中でも就職人口大の企業への就職を希望する学生は25万6千人と多く、大手企業への就職は依然として厳しいようだ。

そんな中、大学側も学生の就職支援を積極的に行っている。本学も例外ではなく、毎月就職に関する講座を開催している。今回は、私たちの就職活動を支えてくれる就職部の後藤昭彦部長にお話を伺った。

近年、不況で就職が難しいことは誰もが知っていることだろう。その影響によって就職部の後藤さんは次のように語る。「企業の厳選採用が強まっている。体制から中途採用など多様化、業態化が顕著になり、民間企業だけでなく公務員などに重視され採用に絡わってきまして。それは規例のないような話題性を解決する意欲が求められる。また、キャリアデザイナーが出てきていれば、就職部は、ずっと前から、焦りつつ色々始めていくべきだろう。様々な経験をしていく中で自分の将来設計を描き、そして修正していくことが必要なのだ。まさしく、就職は一日にして成らず、である。

様々な就職支援プログラム

学生であれば多くのが業務説明会など、業界の話を直接聞ける興味深いプログラムに年間を通して参加できる。こうした手厚いサポートにより、本学は就職率94・9%という高い数字にかかっているようだ。

本学では、そのような厳しい就職活動をサポートすべく、就職部によって、就職支援プログラムが企画されている。その内訳は、1～3年生対象のキャリアアップセミナー、3年生対象にて就職セミナー、SPI試験対策講座など。ちなみに、今年度はキャリアップセミナーが4回（うち3回は実施済み）、就職セミナーが11回開催。

その他にも産業事情（業界説明会）や、企業訪問（業務説明会）など、業界の話題、そして、マナーを持って「臨む」ことと、相手企業に「この人材が欲しい」と思わせること。そういう自己PRをするために、参加したことがない人、先ほどの学生のケースも、教員になるという目標、教職課程の履修と自分には不向きであったと検討をだに新たな自的を決したという流れを作ることができれば、高い評価が期待できる。

学生時代を充実して過ごすとは、面接の時、有利になる。そのために、自分で何をし、何を感じ、そしてどのように努力したかというPDCAサイクルを意識して実践してみよう。

このように就職支援プログラムは、毎日を有意義に過ごすヒントを与えてくれる。自らには先だと思っている1、2年生も、ぜひ、参加してみてほしい。

平成16年度　就職支援プログラム
（就職セミナーを除く）　情報提供：就職部

	日時	場所	内容
★	9月21日(火) 10:40～12:10 ※講義室:第13期	未定	産業事情（業界説明会）講師：外部講師
★	9月21日(火) 12:40～14:40	北1号館 2階会議室	グループ面談教室 講師：講師就職部
★	10月9日(土) 13:00～17:00	西5号館	第1回 SPI・一般常識対策テスト ※参加費用 500円 ※講義・解説あり
★	11月12日(金) 18:00～19:30	西5号館B1及び201教室	SPI試験対策講座① 講師：外部講師
★	11月13日(土) 13:00～14:30	西5号館B1及び201教室	SPI試験対策講座② 講師：外部講師
★	11月20日(土) 13:00～14:20	中央教室	第2回SPI対策テスト ※参加費用 1000円
	11月24日(水)～12月15日(水) ※11/26・12/1及び土日は除く 18:00～19:00	西5号館	業界・業務研究セミナー
	2月3日(木) 2月4日(金) 10:00～	西2号館	学内企業・官公庁業務説明会①
	2月17日(木)～2月24日(木) ※土日は除く 10:00～	西2号館 西5号館	学内企業・官公庁業務説明会②

★がついているプログラムは、1・2年生も受講可

就職部に聞く

就職部　後藤昭彦部長

大学生である今、将来のことを考えれば、おのずと「就職」の文字が浮かぶ。ほとんどの学生は就職するのだから当然だ、それゆえ、就職支援を積極的に行っている。

就職部は、4年でなくても、社長を務めている方々、この会は社、佐藤氏が学生時代に苦労した経験から、講師として参加、ジョブウェブ株式会社ジョブウェブ先生方を送るために」の様子を取材した。

キャリアアップセミナー

講師は、本学学生を指導されるの年で注目になる佐藤孝治氏。佐藤氏は現在30代で、若いながらも就職部にいらっしゃった。企業は学生のニーズを知るチャンスになる。

当日のセミナーの様子

セミナーでは、まず「自分が今まで頑張ってたこと」について、対話のペアで紹介し合った。これは、自分が今まで何を頑張ってたかを、アピールする練習になるという、自分を振り返る意味でもよい体験になるだろう。

講師の方のお話に聞き入る学生たちは真剣そのもの

また、学生の質問時間には、資格の取得は就職に有利なのか、という質問が、この話題は、佐藤氏が学生時代に苦労した経験、教員免許を取ったという結果も、なかなか面白かった。

佐藤氏がとくさら強調したのは、PDCAサイクルの重要性。Plan・Do・Check・Action の現文字をとったものだ。

この思考は、仮説→行動→結果の検討→改善という流れ。先ほどの学生のケースも、教員になるという目標、教職課程の履修と自分には不向きであったと検討をだに新たな自的を決したという流れを作ることができれば、高い評価が期待できる。

学生時代を充実して過ごすとは、面接の時、有利になる。そのために、自分で何をし、何を感じ、そしてどのように努力したかというPDCAサイクルを意識して実践してみよう。

このように就職支援プログラムは、毎日を有意義に過ごすヒントを与えてくれる。自らには先だと思っている1、2年生も、ぜひ、参加してみてほしいとこの思考は、PDCAサイクルを動力源に、自分の目標を達成する為に、参加することが大事です。そして、自分にフィットする企業をこのめべく、

（小俣菜奈美）

編集後記

後期試験が終わる2月、3年生は徐々に面接を受け始め、4年生になると、いよいよ本格的にエントリーシートを書くことになる。

ここで、ポイントとなるのは、「自己PR」。

しかし、最近はこの図式が崩れ始めている。採用する企業側がより早い時期に、学生獲得に乗り出しているのだ。それに伴い、学生側も就職活動を開始する傾向にあるのだ。

だから、3年生活を送るこの重要な時期に、何を目標にすべきか。

（江崎瑠里子）

記者の眼

将来の夢、捨てる前に

ここに、平成6年度とある都道府県で行われた、小中中学生の「将来の夢」の有無に関する調査結果がある。これによると、小学生で「夢がある」と答えたのは78%、中学生では60%、高校生では66%となっている。昨今の夢を見つけられない若者が多いという話題から考えれば、妥当な数字であるといえるだろう。

さらによく調査結果を見ると、なかなか面白い結果が出ている。小学生で「はっきりとした夢がある」と答えたのが62%であるのに対し、中学生では41%、高校生では35%と、年が上がるにつれて減少している。の難しさを知った結果だと考えることもできるが、それでもこの減少は大きいと思う。

では、同様の調査を大学生に対して行うとするとどうだろうか。私は、これよりも、もっと低い数字が出るのではないかと考える。その理由の一つとして、今母ここに、平成6年度とある都道府県で行われた、小中中学生の「将来の夢」の有無に関する調査結果がある。これによると、小学生で「夢がある」と答えたのは78%、中学生では60%、高校生では66%となっている。昨今の夢を見つけられない若者が多いという話題から考えれば、妥当な数字であるといえるだろう。

さらによく調査結果を見ると、なかなか面白い結果が出ている。小学生で「はっきりとした夢がある」と答えたのが62%であるのに対し、中学生では41%、高校生では35%と、年が上がるにつれて減少している。の難しさを知った結果だと考えることもできるが、それでもこの減少は大きいと思う。

では、同様の調査を大学生に対して行うとするとどうだろうか。私は、これよりも、もっと低い数字が出るのではないかと考える。その理由の一つとして、今母の

本紙「結集面」で取り上げた、就職セミナーが挙げられる。つまり、就職セミナーを多くの学生が利用しているという時点で、彼らは「はっきりとした夢がある」とは答えないだろうということだ。なぜならば、本紙特集面でおり、就職セミナーは就職部を サポートするためのこと。だが、もし夢があるなら、就職活動が関係ない必要もない。目標があるのだから、ただそれを目指して突進めばいいだけのはずだ。

もちろん、その夢へのステップアップとしてセミナーに参加するべき、あるいは夢が破れたために就職活動を行うこともあると思う。だが、周りの学生を見ていると、どうも「取りあえず夢を捨てている」という人が多いように感じる。確かに、夢を追うということは、同時にリスクを負うことでもある。しかし、だからといって最初から夢を捨て、とりあえず就職活動の準備を始めようなど、考えてよいのだろうか。

本紙「結集面」で取り上げた、就職セミナーが挙げられる。つまり、就職セミナーを多くの学生が利用しているという時点で、彼らは「はっきりとした夢がある」とは答えないだろうということだ。なぜならば、本紙特集面でおり、就職セミナーは就職部を サポートするためのこと。だが、もし夢があるなら、就職活動が関係ない必要もない。目標があるのだから、ただそれを目指して突進めばいいだけのはずだ。

もちろん、その夢へのステップアップとしてセミナーに参加するべき、あるいは夢が破れたために就職活動を行うこともあると思う。だが、周りの学生を見ていると、どうも「取りあえず夢を捨てている」という人が多いように感じる。確かに、夢を追うということは、同時にリスクを負うことでもある。しかし、だからといって最初から夢を捨て、とりあえず就職活動の準備を始めようなど、考えてよいのだろうか。

景観法にみる法制化の意義

最近では、「大学で夢を探す」ということも、比較的許されるようになってきている。最後のモラトリアムとして、社会へ出るための準備をするために、逆に言えば、夢を見つけ、そして挑戦するための最後の大きなチャンスであるともいえる。

現在行われている国会で、内閣は120余りの法案を提出した。その一つに景観法案がある。これは景観の美化によって、市町村による地域計画案を作成する権利を与え、また、広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

景観を守るということは、人々の権利を制約することでもある。なぜなら景観を守るために、土地や自然資源の使用方法、建物の色や周囲まで自由にならないからだ。そもそも巨小町並みを残すということ自体、自然に反している。町並みは時代によって変わるのだから、いたずらに景観の保護をするのは、ただ人々の所有権を制限するだけでなく、市町村にも景観の保護を法案は、「広告と建築に関して条例の規制可能な範囲を広げたものだ。しかし、本当に景観は必要だろうか。まず景観を守るということの意味を考えてみる。

（数学科2年　山本俊一郎）

OBインタビュー　中澤剛さん

軽妙に語る中澤さん

今回の特集では就職セミナーについてしまうこともあるだろう。そこで中澤さんは練習をすることが非常に役に立ったという。

「面接」成功するポイントは慣れですから、練習の回数を重ねることで、予期される質問を広くシミュレーションしておくことが大事です。

また中澤さんは、早めの就職活動の準備の本音の表現を聞くことができました。

「12月のセミナーは、各業種について、関連させて答えることができます。

合わせて面接の練習ができる。業種によって慣れの違う面接試験。本番に向けて対策をするのは大事なことだ。

面接試験で重要なことは「元気よく、姿勢正しく、マナーを持って「臨む」ことと、相手企業に「この人材が欲しい」と思わせること。そういう自己PRをするために、参加したことがない人、先ほどの学生のケースも、教員になるという目標、教職課程の履修と自分には不向きであったと検討をだに新たな自的を決したという流れを作ることができれば、高い評価が期待できる。

学生時代を充実して過ごすとは、面接の時、有利になる。そのために、自分で何をし、何を感じ、そしてどのように努力したかというPDCAサイクルを意識して実践してみよう。

このように就職支援プログラムは、毎日を有意義に過ごすヒントを与えてくれる。自らには先だと思っている1、2年生も、ぜひ、参加してみてほしい。

（山田絵美）

〈取材・構成〉
江崎瑠里子
海老名潤
小保曽永美
北岡恵子
三枝見子
平峯さとみ
山田絵美

((´･ω･`))ねえ、大学新聞って、ドコにあるか知ってる？　社告

エッ！？Σ(￣□￣;))(し、知らねえ…)

「新聞、もらえる月ともらえない月があるんだけど…」
「学科の友達とかにも、新聞あげたいんだけど…」
そんなアナタ！　実は、以下の場所でも大学新聞を手に入れることができるんです！！
例として西門からの道のりも載せておきましたので、1年生の方もこの機会に是非チェックして下さいネ♪

場所	西門からの道のり
●西門守衛所	（西門入ってすぐ右側）
●正門守衛所	（西門を入り道なりに進まず、狭い道路沿いの道を直進）
●西5号館学生ホール	（西門から道なりに進み、最初の大きな建物1階にある広いホール：西5号館）
●西5号館受付	（西5号館に入り、学生ホールとエレベーターホールを抜けた先）
●学生食堂	（西5号館の向かい側にある、輔仁会館1階の食堂）
●ローソン前のラック	（西5号館の向かい側にある、輔仁会館2階のローソン前にあるラック）
●西2号館実習室前	（道なりに進み、西5号館と芝生を挟んで建つ西2号館1階にあるパソコン実習室の前の机）
●北1号館就職資料室	（西5号館と西2号館の間の道を進み、大学掲示板を通り過ぎた先の左手にある部屋）
●法経図書館	（西5号館と西2号館の間の道を進み、ピラミッド校舎の奥に見える白く巨大な建物）
●大学図書館	（西5号館沿いの道から草木の茂る並木道を進んでいき、突き当たりの建物）
●計算機センター	（ピラミッド校舎のさらに奥、パンの自販機の向かい側の道の奥：南5号館）
●各学部の事務室	（各学部のパンフレット参照）
●文学部学科の共同研究室	（大学図書館に行く途中、左手に見える建物の各階：北2号館）
●生涯学習センター	（西門をくぐらず坂を下っていき、左手に見える角地の建物：西11号館）
●大学新聞社総室	（西門から道なりに直進、噴水広場の奥にある建物の316号室：黎明会館）

※上記以外にも、各号の発行日（次号は7月5日）の午前中は、西門にて部員による手配りを行っております。こちらもあわせてご利用ください。
※また、バックナンバーは部室にてお渡ししております。ただし、在庫状況によってはお渡しできない場合もございますのでご了承ください。

第35回大学祭実行委員会

貴方の
パンフレットデザイン
買います

詳しくは後日掲示板にて。

June Bride ～結婚ってなんですか？～

誰しも人生の重要な出来事として位置づけている「結婚」。しかし、結婚への思いや、求めるものは様々です。そこで、結婚に関するアンケート調査を実施。本学学生がどのような結婚観を持っているのか、その全容に迫ってみました。

結婚観は人それぞれ

考えてみれば、そこにし一ト調査を実施。さらに、こに結婚への関心を呼び起こすものがある。自分の両親を見ているとき、結婚雑誌のCM、芸能人の結婚報道、知人の結婚式など。きっかけはなんであれ、一度は自分の結婚がどのようなものかと考えたことがあるだろう。しかし、考えてみたことがあっても、またまだ現実味が乏しく、友人との会話にのぼることは少ないのではないだろうか。

今号では、本学学生がどのような結婚観を持っているのか探るために、アンケート調査を実施。本学講師の方々にこの結果を分析、評論していただいた。また、本学在学中に交際し、昨年結婚した夫婦にインタビュー。結婚式を挙げた経緯から、自らの体験談をまるごと語っていただいた。

「結婚＝幸せ」。今では現実味を

アイススケート部フィギュアスケート部門

男女合わせて5人入賞

優雅に舞った18人

5月22日に関東学生フリースケーティング選手権大会が行われた。本学は、ジュニアBクラス男子・女子、ジュニアCクラス男子・女子の4つのグループに18人が出場。ジュニアCクラスのグループでは、中嶋雅晋選手（仏3・さかた）の6位を筆頭に、4人が入賞するという好成績を挙げ、今年度1回目の大会で本学は上々のスタートを切った。

華麗な演技を披露したフィギュアスケート部の面々。下段左から3人目が椎名主将

フィギュアスケートは個人競技だんだけども、1人人観戦するんですが、1人します。自分1人だけじゃなくて全員で試合をしてるんだ、という一体感がある のでやっぱり試合は楽しいですね。5月22日に東大和スケートセンターで行われた関東学生リーグ・スケーティング選手権大会後に、椎名寿日主将（済4・みか）は笑顔で応答する。

フィギュアスケートはエレメンス（技）をしっかり決めることも重要ですが、何よりも一つ一つの動きをいかに美しく魅せるかがポイントになってくるんです。そのような強みを発揮し、本学の中でジュニアBクラス女子のトップの成績をあげたのが中嶋選手。2部構成の「眠れる森の美女」の曲に合わせてメリハリの利いた語りを披露し、プレゼンテーションの部分で積極的にアピールしていく。そして、エレメンスではルッツジャンプが着地の際に多少ふらついたものの、スピードにのったフィリップ・ウルーフや、後半のスパイラルシークエンスはしっかりと決めてみせた。

その他の演技も軽快にまとめた中嶋選手は、テクニカルメリット9.14・8点、プレゼンテーション9.15・7点の計30・5点で、総合順位6位と見事入賞を果たした。秋の大会に向けての中嶋雅晋（仏2・6位）宮本夏実（経4・7位）森田さやか（史4・9位）糸井裕子（経3・10位）野澤絵理子（史4・11位）野田裕紀（法4・12位）恩田佳枝（文3・13位）関根恵矢子（政4・14位）椎名寿日（済4・16位）上原有喜（日4・18位）加藤孝子（政3・21位）山田美紀子（政3・33位）大島千春（政3・34位）

▼関東学生フリースケーティング選手権大会

ジュニアBクラス男子
金井孝寛（経4・4位）

ジュニアBクラス女子
最愛さや香（教2・9位）
成瀬のぞみ（経済4・11位）
小倉麻紀子（仏2・18位）

ジュニアCクラス男子
中野智裕（法2・2位）
中嶋雅晋（仏3・6位）
宮本夏実（経4・7位）
森田さやか（史4・9位）
糸井裕子（経3・10位）
野澤絵理子（史4・11位）
野田裕紀（法4・12位）
恩田佳枝（文3・13位）
関根恵矢子（政4・14位）
椎名寿日（済4・16位）
上原有喜（日4・18位）
加藤孝子（政3・21位）
山田美紀子（政3・33位）
大島千春（政3・34位）

2部の貫禄で大勝

フェンシング部女子

相手に1点も許さず、大きくリードを広げた山下選手（右）

「私たちは2部チームとしてのプライドがありました」本学が大差で3部チーム体育部で行われた。そこで本学は2部残留をかけ、東京外語大との試合に臨んだ。

5月23日、関東学生リーグ2部3部入れ替え戦の女子エペ部門が東京農業大学で行われた。そこで本学は2部残留をかけ、東京外語大との試合に臨んだ。

第1試合目は経験豊富な川津選手。だが序盤でいきなり2点先制されてしまう、そんな中でも彼女は冷静だった。全身のどこを突いても1点奪えるエペは簡単に点を返せるからだ。一瞬のスキをつき川津選手は相手に剣を命中させる。そしてすぐにもう一点加え、同点に追いついた。

続いて登場したのは合同部が初の公式戦という渡辺芽巳（法5・めぐみ）選手。「やはり初出場の緊張はありましたが、練習してきたことを出し切れました」という渡辺選手は、その言葉通りの活躍を見せてくれた。彼女の剣は相手を優美に捉え、本学は7－5と勝ち越す。

第3試合目の山下真代選手（学習院女子大・日本文化3）は相手を圧倒し、1点も許さない。逆に彼女は続けざまに得点を決め、13－5と本学のリードを広げた。続く尾崎育穂選手（政2）も相手の動きを封殺し、自分のペースを守る。

そして、最終第9試合は川津選手。この時点で26－14と本学は大幅にリードしていた。相手は必死に猛攻してくるが、焦りのために冷静さを定められない。川津選手は果敢に攻め続ける相手を後敏な動きでかわす。そして相手の胴に剣を命中させ、反撃する気力を奪った。この後は完全に川津選手のペース。胴胴に点を加えていき、29－14で本学は貫禄の勝利を収めた。

川津選手は、「1部チームなみの大応援に助けられました」と語ってくれた。「応援してくれる人たちは彼女たちの強い支えなのだと思う。だからこそ、1部チームとの試合は、ただ勝つだけでなく、これから本学がどんな活躍を見せてくれるか楽しみである。（篠木大）

お詫びと訂正

前号（5月10日発行）の紙面に掲載致しましたフェンシング部記念式典の記事に誤りがありました。写真の絵解き「記念品を贈呈する清水さん（左）と三藤さん」は「清水さん（右）と三藤さん」です。フェンシング部の皆様、並びに関係者の方々に深くお詫びすると共に訂正致します。（内藤真治）

本学ラクロス部からU―21に2人選出される

今年5月26日、日本ラクロス協会による男子の21歳以下日本代表（U―21）の選考結果が発表され、本学からも2人が選ばれた。選出された人は「選出されたことに対して、長瀬選手は「U―21に選ばれて、秋のリーグ戦でオフェンスの要として活躍したいです。U―21の試合では絶対に出ていきます。そしてこのU―21での経験を活かして、秋にはまた、感謝したいです。その目標は全日本選手権大会に本学を導き、学生最強の座を奪ってやるつもりです」と語った。また大森選手は、「ここまで来ることができたのは、自分を学ラクロス部が育ててくれたからです。感謝したいです。そして選ばれたからには、同じ世代の選手に見られて恥ずかしくないようなプレーをしたいです」とコメントした。

今後、U―21は6月にアメリカの西海岸大学選抜との国際親善試合に臨む。そのため、この種目にコックスである小形悠介ブルスコ選手（経済4）の名前が抜けていました。さらに、記事中の試合日程の記事中、多くの誤りがありました。訂正箇所は以下の通りです。

試合の種目数は「4種目」ではなく「3種目」。お花見レガッタ大会が行われたのは「前週」ではなく、「4月3日、4日」。両手こぎ男子「成蹊大」ではなく「成城」。2人両手こぎの「桜松賞」とあるのは「蔦津賞」。「一人両手こぎの男子ダブルスルのこと「蔦津賞」。「一人両手こぎの男子ダブルスルの「桜松賞」と「蔦津賞」の選手は